令和７年１０月１５日
国土交通省東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所
秋田県東成瀬村

「第３回 成瀬ダム水源地域ビジョン策定委員会」
開催結果について

ダムは治水・利水の役割に加え、新たな観光資源として水源地域の活性化にも期待されています。
水源地域の自立的・持続的な活性化を図るためには、水源地域および流域の自治体や住民、関係機関等と広く連携していくことが重要であり、地域資源とダムを組み合わせ、地域の魅力を最大限に引き出し、流域全体の発展を目指す必要があります。
成瀬ダムでも水源地域および流域全体の活性化を目指すために、成瀬ダム水源地域ビジョン策定委員会を設立しました（令和６年１２月）。これまで、第１回策定委員会（令和６年１２月）で基本事項を決定し、第２回策定委員会（令和７年３月）でビジョンの柱となる「基本理念・基本方針」を決定しました。
そして、令和７年１０月７日に「第３回成瀬ダム水源地域ビジョン策定委員会」を開催し、第２回委員会で決定した「基本理念・基本方針」を実現していくための「行動計画」素案について協議を行いました。あわせて、検討体制拡充（案）、ダム活ミーティング企画（案）、ダム湖名称決定プロセス（案）について協議を行いました。

要旨

１．水源地域ビジョン「行動計画」素案について

・成瀬ダム水源地域ビジョン「行動計画」素案について、流域を含めた今後取り組むべき内容の方向性、取組内容などについて意見が挙げられた。
・本委員会の意見を踏まえ今後検討を進め、年度内の「行動計画」決定を目標に進めていくことを確認した。

２．水源地域ビジョン「検討体制」について

・検討体制の拡充のため、地域プロモーション戦略・ブランディング戦略を専門とする学識経験者、ならびに産業・観光振興、ダム湖面利用、情報発信に関する団体などを加える方向で進めることを確認した。

３．令和７年度「ダム活ミーティング」の実施について

・令和７年度「ダム活ミーティング」について、策定委員会主催により令和７年１２月１４日開催を想定し、企画・準備を進めること確認した。

４．ダム湖名称の検討に向けて

・ダム湖名称を決定していくにあたり、募集・選定方法やスケジュール等のプロセスについて、本委員会の意見を踏まえ今後検討を進め、年度内の「プロセスの決定」および「募集開始」を目標に進めていくことを確認した。

第３回 成瀬ダム水源地域ビジョン策定委員会

委 員 名 簿

所 属		役 職	氏 名	備 考
学識有識者	秋田大学 教育文化学部 地域文化学科	教 授	林　　武司	委員長
観光	一般社団法人 秋田県観光連盟	専務理事	上田　智子	
水利用	秋田県雄物川筋土地改良区	理事長	柿﨑　幹夫	〈代理〉 管理課長 後藤 展史
地域活動	NDM（なるせダムミーティング）取組推進部会	代 表	鈴木　　実	
行政機関	秋田県 雄勝地域振興局	局 長	小原　友明	
	横手市	市 長	髙橋　　大	
	湯沢市	市 長	佐藤　一夫	〈代理〉 建設部 部長 栗林 恒人
	大仙市	市 長	老松　博行	〈代理〉 観光文化スポーツ部 部長 加賀 貢規
	東成瀬村	村 長	備前　博和	
	東成瀬村 教育委員会	教育長	大沼　一義	
	国土交通省 成瀬ダム工事事務所	所 長	野口　暁浩	

第３回 成瀬ダム水源地域ビジョン策定委員会

日 時：令和７年 10 月７日（火）10:00～12:00
場 所:東成瀬村役場 防災情報センター３階会議室

議 事 次 第

１．開　会

２．挨　拶

３．令和６年度成瀬ダム水源地域ビジョン策定委員会の検討結果　　（資料１）

４．議　事

（1）規約改定について　（資料２）

（2）今年度の検討内容・進め方について　（資料３）

（3）水源地域ビジョン「行動計画」素案について　（資料４）

（4）水源地域ビジョン「検討体制」について　（資料５）

（5）令和７年度「ダム活ミーティング」の実施について　（資料６）

（6）ダム湖名称の検討に向けて　（資料７）

５．その他

（1）桧山台跡地利用整備計画について

（2）次回策定委員会について

６．閉　会

成瀬ダム水源地域ビジョン 行動計画（素案）

協議内容

・下記検討フローに示す通り、今年度は、**昨年度決定した基本理念および基本方針を踏まえ**、ビジョンの**行動計画のとりまとめ**を行う段階である。
・とりまとめにあたっては、下記検討スケジュールに示すプロセスに沿って、委員会および幹事会での協議、意見照会等を行い、**次回委員会（２月中旬予定）にて行動計画を決定**する。
・本委員会では、幹事会や NDM 取組推進部会（NDM+）の意見および既往の取組の状況を踏まえ、**基本理念および基本方針の実現に向けた具体的な取組**および、そのうち**先行して進める取組**について決定したい。

【成瀬ダム水源地域ビジョン 検討フロー】

１．成瀬ダム及び水源地域の概要
1.1 成瀬ダムの概要
1.2 地域の概要

令和６年度

２．基本理念と基本方針
→ 関係者が共有できる基本理念（取組の将来像）、及び基本方針①～⑥を決定

必要に応じて見直し

令和７年度

３．行動計画（活性化の方策）
→ 取組の具体のテーマ、メニュー、その効果等をとりまとめ

必要に応じて見直し

令和８年度

４．推進方策
→ 実施体制や目標スケジュール等のロードマップ、フォローアップ計画等をとりまとめ

令和９年度

成瀬ダム水源地域ビジョン とりまとめ

《令和７年度の検討スケジュール案》

第３回幹事会（９月３日）

①検討スケジュールの共有
②意見照会（具体的な取組内容や主体となる人・団体、財源の確保等）

９月２２日

③NDM+
・取組メニュー
・先行して進める取組

②③結果を事務局で整理、とりまとめて行動計画（素案）を作成

第３回策定委員会（10 月７日）

④行動計画（素案）の協議（取組メニュー、先行して進める取組の決定）

検討体制の拡充

第４回幹事会（11 月想定）

⑤行動計画（案）の具体検討

⑥NDM+

～1 月中旬

⑤⑥での意見を踏まえ、行動計画の最終案を作成

第５回幹事会（1 月下旬）

⑦行動計画（最終案）の確認

第４回策定委員会（2 月中旬）

行動計画　決定

行動計画（素案）

・幹事会への意見照会、NDM+での協議の結果、水に関する教育やダムツーリズムやモデルコースづくりへの協力、成瀬ダムや地域の観光コンテンツの情報発信、既往の取組の継続などの意見が挙げられた。
・それらの意見、その他に基本理念や基本方針の実現に向けて重要と思われる取組を整理し、**具体的な取組の素案を作成**した。
・本委員会では、**具体的な取組**および、そのうち**先行して進める取組の決定**、また、以下に記載の他に**必要と考えられる取組があればご意見を伺いたい。**

基本理念

“成瀬ダム×地域資源×連携”でみんなが人と風土の豊かさを実感できる地域づくり

基本方針（取組の方向性）

方針１：郷土の歴史・文化の継承、地域への意識醸成
◎成瀬ダム、雄物川等を題材とした環境教育、自然教育を推進し、地域の環境保全意識を醸成
◎**各地域の資源、特徴、体験、テーマ等を活かした上下流の学校や住民等の交流を推進し、地域相互の歴史・文化等の理解促進**
◎多年代の交流により、秘めた地域資源の発掘等に取り組み、郷土愛を醸成

方針２：「人と風土の豊かさを実感する」魅力向上
◎**豊富な地域資源、独自の文化の継承・活用による他地域との差別化**
◎**新たな地域資源として成瀬ダムやダム湖を活用した魅力づくり**
◎ガイドや語り部等の人材育成、おもてなしの素地づくり
◎インバウンドも想定した受け入れ体制の整備や、雪や独自の文化等を活かしたコンテンツ作り
◎既往のイベントの連携や、新たなイベントの実施等による地域の魅力発信
◎地域との繋がりが感じられる体験コンテンツの充実
◎上記による地域への関心、地域との関わりを促進し、関係・交流人口を拡充

方針３：地域内の周遊観光の拡充から滞在型観光へ
◎**新たな地域資源として成瀬ダムやダム湖を活用した拠点づくり**
◎**成瀬ダム、全国区の知名度のあるイベント、隣接他県も含む周辺の観光地等と連携した周遊型観光（ツアーの造成）により、地域への立ち寄りを促す**
◎**通過する観光客の取り込みを狙い、ダム湖でのアクティビティの開発、様々な体験メニューの充実、地域内で周遊する仕組みやコースづくりを推進**
◎**ダム工事見学目的の来訪者に向けた地域資源・文化等の PR や体験の提供**
◎個人旅行者、県内他地方の方に向けた、地域独自の資源・文化を活かしたおもてなしを行う滞在型観光（少人数、高付加価値）の推進

方針４：地域資源を活かした産業の活性化
◎**来訪者、地域外の方向けに、成瀬ダム等をきっかけとした既存の特産品の磨き上げや、新たな特産品の開発**
◎地域間連携によるブランド力の向上や販路の拡大
◎上記による来訪者、関係人口（地域の応援団、ふるさと納税等）の拡大

方針５：連携したプロモーション・情報発信等
◎全国区のイベントや独自の文化等を連携して情報発信、PR することによる知名度向上
◎ターゲットに応じたプロモーション、情報発信の展開
◎隣接する他ダム等と連携したプロモーション展開
◎統一したシンボルやデザインを用いたイメージ展開

方針６：雄物川流域、周辺地域等との連携・協調
◎**雄物川上流地域（東成瀬村、湯沢市、横手市、大仙市）間を中心に、下流域や県外の隣接市町村、ダム管理者、民間、活動団体等が連携・協調し、取組を推進**
◎ダム工事に従事している方々との継続的な協力関係の構築

紺太字：優先度が高いと思われる取組

取組のテーマと具体的な取組（素案）

【取組のテーマ】	【具体的な取組】
＜環境保全・継承分野＞	
水源地域の環境保全	**○上下流連携による水源地での植樹活動の推進［成瀬の森づくり］** （ダム完成後の森づくりの推進体制づくり、苗木の育成等）
地域の歴史・文化の継承	**○学校教育との連携の推進**（成瀬ダムや水源地の役割についての出前授業の実施等） **○上下流連携による交流会の開催**（流域の小学生や親子を対象とした交流会の開催等）
＜利活用分野＞	
地域資源の活用	・**水源地域体験メニューのブラッシュアップ**（集客力アップに向けた広報手法の検討等） ・**雪を活かした観光コンテンツの開発**（豪雪を活用したイベントの開催等） ・**既往イベントとダムツーリズムの連携の推進**（東成瀬村産業祭や丸太市との連携等）
成瀬ダムやダム周辺の活用	**●ダム湖・ダム堤体利活用の推進** （ダム湖：魚釣り、湖面スポーツ（カヌー、ボート、SUP 等）等） （ダム堤体：ライトアップ、ボルダリングイベントの開催等） ・ダム湖やダム堤体利活用のルールづくり **●残土受入地（桧山台地区跡地）利活用の推進** （イベントの開催、利活用メニューの検討、キャンプ場等の整備に向けた民間参入の検討等）
成瀬ダムを活用した観光（ダムツーリズム）	**●広域周遊の推進**（旅行会社や周辺地域との連携による広域周遊ツアーの造成等） **○モデルコースづくりの推進**（ダム＋地域内の資源をめぐる周遊コースの造成等） **○ダム見学ツアーの継続**（ダム完成後の見学ツアー内容の検討等）
特産品の開発・販売	**●ダムやダム周辺を活用した特産品開発の推進**（ダム堤体でのワインや日本酒の貯蔵、桧山台地区跡地での椎（こうぞ）の栽培、湧水を活かした特産品開発等） ・成瀬ダム管理庁舎や地域のイベントを活用した特産品の販売・PR
＜共通分野＞	
プロモーション・情報発信力の向上	・**成瀬ダムの広報の強化**（成瀬ダムの恩恵に対する周辺市町村民の理解の促進） ・**取組のプロモーションの推進**（ターゲットに応じた広報手法の検討、イメージづくり等） ・成瀬ダム水源地域ビジョンの周知（連携による情報発信、HP の活用等）
人材の確保・育成【方針：1～5】	・歴史・文化の継承者（自然観察ガイド、語り部等）の確保・育成 ・**観光ガイドの確保・育成**（観光ガイド育成マニュアルの作成等） ・取組を推進する担い手（マンパワー）の確保・育成（新たな取組の運営者、イベントスタッフ等）
流域のつながりの強化	・「**成瀬ダムまつり**」**の活用・拡充**（水源地域や流域・周辺地域の事業者による出店、PR ブースの設置等） ・「**ダム活ミーティング**」**の開催**（地域振興のヒントの取得や流域のつながりの強化）

雄物川流域、周辺地域との連携による展開

※黒太字：幹事会意見　**青字**：NDM+意見　**赤字：先行して進める取組（案）［●＝水源地として特に進めたい取組　○＝事務局案］**

先行して進める取組（案）

・取組メニュー（素案）を基に、先行して進める取組（案）を抽出し、先行する理由や取組の内容を整理した。
・取組の実施体制や役割分担等については、本委員会で決定いただいた結果をもとに、**次回以降のNDM+および、幹事会で具体の検討を行う。**

取組①　上下流連携による水源地での植樹活動の推進［成瀬の森づくり］

■ **先行して進める理由**
・水源地域と国が取組を開始したが現状は試行段階であり、将来的な桧山台地区跡地での森林再生に向けて、取組の継続・発展に向けた運営体制の拡充や、森林再生のプラン作りが必要

■ **取組の目的**
・ダム建設残土置き場となっている「桧山台地区跡地」の森林再生
・成瀬ダム周辺の自然に対する愛着の形成、地域住民の環境保全への参加

■ **取組の内容**
・ダム完成後の森づくりの推進体制づくり
・苗木の育成
・植樹イベントの開催
・森林再生のプラン作り　等

【取組イメージ】



過年度の「成瀬の森づくり」の実施状況



20 年以上継続する植樹活動（摺上川ダム）
出典：摺上川ダム

取組②　学校教育との連携の推進

■ **先行して進める理由**
・流域の連携を推進するにあたっては、周辺自治体が受ける成瀬ダムの恩恵について、住民レベルでの理解が必要

■ **取組の目的**
・ダムの役割や生活とのつながりを知ることにより、地域社会への理解や郷土愛を醸成

■ **取組の内容**
・流域自治体への出前授業の実施
・教育課程への位置づけ

【取組イメージ】



５年生を対象としたダムの役割についての出前授業（吉野瀬川ダム）出典：越前市大虫小学校

取組③　上下流連携による交流会の開催

■ **先行して進める理由**
・水源地域と国で上下流交流会を開始したが現状は試行段階であり、取組の継続・発展に向けて運営体制の拡充や取組の具体化が必要

■ **取組の目的**
・水源地と下流域の方々の交流を通して、利水・治水や、互いの地域の環境・歴史・文化等の理解を深める

■ **取組の内容**
・雄物川流域の小学生を対象とした、成瀬ダム見学と東成瀬村の文化や自然を体験する交流会の実施
・親子を対象とした水源地ツアーの実施　等

【取組イメージ】



過年度の「成瀬ダム交流会」開催時の状況（東成瀬村まるごと自然館）

取組④　ダム湖・ダム堤体利活用の推進

■ **先行して進める理由**
・ダム湖やダム堤体は今後新たな資源となるが、具体的な活用方法について協議ができていない

■ **取組の目的**
・ダム湖・ダム堤体の利活用による交流人口の拡大および経済効果の向上

■ **取組の内容**
・（ダム湖面の利活用）魚釣り、カヌー、ボート、SUP　等
・（ダム堤体の利活用）ライトアップ、ボルダリングイベントの開催　等
・ダム湖やダム堤体利活用のルールづくり

【取組イメージ】



魚釣り（青土ダム）出典：青土ダムエコーパレイ


カヌー体験（胆沢ダム）出典：奥州市


堤体登山体験（胆沢ダム）出典：岩手日日新聞社

取組⑤　桧山台地区跡地利活用の推進

■ **先行して進める理由**

・桧山台地区跡地は今後新たな資源となるが、敷地が約 20ha と広大であり、利活用にあたっては下流域との連携が望まれる

■ **取組の目的**

・桧山台地区跡地の利活用による交流人口の拡大および経済効果の向上

■ **取組の内容**

・イベントの開催（成瀬ダムまつり、民間イベントの誘致等）
・利活用メニューの検討
・キャンプ場等の整備に向けた民間参入の検討　等

【取組イメージ】



過年度の「成瀬ダムまつり」開催状況



ダム周辺の利活用：MTB コース（久婦須川ダム）
出典：富山市



公民連携によるキャンプ場整備（五ケ山ダム）

取組⑥　広域周遊の推進

■ **先行して進める理由**

・旅行会社によるバスツアーは継続しているものの、水源地域および流域への経済効果が限定的であり、経済効果の向上に向けた取組の具体化が必要

■ **取組の目的**

・成瀬ダムを核とした流域、および周辺地域（県外の自治体や他のダム等）との連携による広域周遊促進による経済効果の向上

■ **取組の内容**

・ダムツアー商品の多様化（日帰りだけでなく、宿泊含む滞在時間の増加）
・既存イベントとの連携
・特産品のセット販売　等

【取組イメージ】





過年度の旅行会社によるバスツアーの実施状況



ダム湖や景勝地、温泉をめぐる広域周遊ツアー（奥只見ダム）
出典：株式会社ワールド航空サービス

取組⑦　モデルコースづくりの推進

■ **先行して進める理由**

・ダムを活かした、地域内の滞在時間増加につながる周遊観光について具体の協議ができていない

■ **取組の目的**

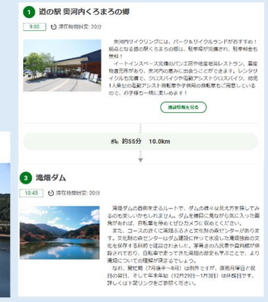
・地域内周遊の促進による交流人口の拡大および経済効果の向上

■ **取組の内容**

・ダム＋地域内の資源をめぐる周遊コースの造成
・地域内資源の魅力向上（アクセスの確保、ガイドの育成等）
・他ダムや周辺施設との連携　等

【取組イメージ】





道の駅を起点としたダムと地域資源を巡るコースの造成（滝畑ダム）
出典：河内長野市観光ナビ

取組⑧　ダム見学ツアーの継続

■ **先行して進める理由**

・完成後のダムは新たな観光資源となるが、ダムを活かした見学ツアー等について具体化に向けた協議ができていない

■ **取組の目的**

・ダム見学による交流人口の拡大および経済効果の向上

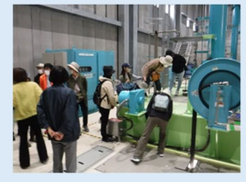
■ **取組の内容**

・ダム完成後の見学ツアー内容の検討
・ツアー実施体制の検討
・教育の取組との連携　等

【取組イメージ】







NPO 法人が実施主体となったダム見学会の開催（鶴田ダム）

取組⑨　ダムやダム周辺を活用した特産品開発の推進

■ **先行して進める理由**

・ダム完成を見据え、完成後のダム堤体や桧山台地区跡地を活用した特産品開発について早期の具体化が必要

■ **取組の目的**

・ダムやダム周辺を活用した新たな特産品の開発による産業の活性化

■ **取組の内容**

・ダム堤体でのワインや日本酒の貯蔵
・桧山台地区跡地での楮（こうぞ）の栽培
・湧水を活かした特産品開発　等

【取組イメージ】





ダム堤体を活用した発酵特産品の開発（三浦ダム）出典：木曽町